（1）●築炉じん肺訴訟
（2）●第29回なくせじん肺キャラバン
（3）●文化運動
●建交労バザー
（4）●デザイン募集
●日本が売られる

SOLIDARITE「連帯」
ソリダリテ
建交労大牟田支部通信　（No. 32）

築炉じん肺第2陣訴訟12回期日

証人尋問・裁判の行方は…

10月18日（木）新しくなった福岡地裁101号大法廷で、9時30分から門前集会が行われた。

建交労大牟田支部20名、福岡県本部4名、九州支部大分分会3名、熊本分会4名、佐賀分会1名、西日本石炭じん肺長崎請求団3名、医療法人親仁会1名、福建労大牟田支部4名、福建労県本部1名、福岡県労連1名が傍聴に参加した。

今回の期日は、前回の原告本人尋問に対して、被告企業の一つ大和工業が証人二人を準備した。

1人目は、大和工業で勤めていたとされる方で、大分の原告と同じように働いた築炉工ですが、主にコークス炉の建築を行っていたとの事。これまで「じん肺と診られたことはない」と発言。この証人は、「コークス炉の殆どが定型の耐火煉瓦を使用していた為、耐火煉瓦を削る等の粉じんはさほど発生していない」と証言。反面、入社が昭和42年で、「防塵マスクの支給はあっていた」と証言するが、防塵マスクのフィルターを洗って使い回ししていた事を吐いてしまった。そして、「真夏の暑い時期は防塵マスクを外すことはあった」とまで証言。

午後から2人目の証人が出廷した。

この方は、入社が昭和60年で平成22年まで大和工業大分事業所にいた。現在は一人親方。主にトピードカーの修理全般に携わっていたという。

耐火煉瓦の加工で大きく切断するものについては、平成以降、切断機を概ね用いていたがこれを操作するのは整備工との事。それ以外は築炉工が削るなどの加工をしていた。この証人は、会社の健康診断について問われた時に、「自分が20代後半の頃から胸部X線撮影を受けるようになった」と証言。更に防塵マスク本体については、「会社から年に1回の支給があった。防塵マスクのフィルターは自己判断で2~3週間に1度交換していた」と答弁。しかし、会社からの指示でどれぐらいの頻度でフィルターを交換しなければならなかったのかは口にしなかった。

そして、トピードカー内での粉じん飛散防止として「ミスト（噴霧）」していたが、トピードカー内は高温の為、すぐに蒸発してしまい、終いにはホースで水をぶっかけていた」と証言。最後に、原告弁護団からヤマサキに対し「ヤマサキではじん肺になられた方はおられるのですか?」の問いにヤマサキの弁護士はじん肺罹患者が複数人いる事を明かした。

今回の2名の証人は、主にこれまでの大分の原告森さんの証言を覆すのが目的だったようですが、逆に会社の定期健康診断の実態や防塵マスクの取り扱い、散水の方法がいかに粉じん現場だったかを想像させるものでした。

裁判長から、本訴訟の決着のつけ方について問われ、原告弁護団は「和解したい」。被告企業の1つヤマサキは「裁判所の言うとおりにします」。これに逆行するように大和工業は「和解は難しい」とあくまでも固辞しようとしていた。裁判長から「この後、裁判所から原告・被告ヤマサキ・被告大和工業・原告弁護団に対し個別に進行協議を行う」とした。その後の連絡で、次の期日は11月29日に、裁判所・原告弁護団・被告2社の弁護団で進行協議が行われる。（この様子は次号で掲載。）

新福岡地裁門前集会

じかたび

昨年の暮れ辺りから、金属大手企業のデータ改ざんが取りざたされ、今年、自動車業界でのデータ改ざん。耐震ダンパーのデータ改ざん、日産のカルロス・ゴーンの有価証券報告書虚偽記載。

みなさんもご存知のカルロス・ゴーン氏は日産自動車の景気低迷を大規模な人員削減で乗り切り「コストカッター」とまで言われた人。

しかし、犠牲になったのは労働者であり、製品を購入するお客様（ドライバーや通行人）の安全。

そして国会で紛糾している「入国管理法の改正案」。しかし、外国人労働者への具体的身分保障などは全く骨抜き。

大企業の業績回復や空前のぼろ儲けの為に、労働者が解雇され、やがては私たち労働者の賃金ベースも底辺へシフトしていくようでとても怖い。やはり安倍政権を倒し、「モノづくり日本」の復活と、誰もが等しく豊かに暮らせる社会へと向かわせねばならないと常々思うようになっている。

第29回なくせじん肺キャラバン

我が街大牟田市・荒尾市・玉名・大牟田労基は10月3日4日に訪問し要請を行った。

大牟田市は、昨年要請した「建築物の解体時にはアスベスト等の粉じんが飛散しないよう封じ込み」について、今年から解体時の封じ込みをしていると回答し、キャラバンの成果が一つ現れた。

又、今年の日本産業衛生学会の研究発表が熊本市で行われ、実際の被災者が半壊・全壊した家屋周辺でのアスベスト飛散について問うて、「アスベストに罹患しないとは言い切れない」との研究者コメントを用い、「この大牟田でもいつ大規模な地震が来るか分からない、その為にもアスベストハザードマップが必要」とも伝えた。

熊本県荒尾市要請では、「公共建築物の石綿使用状況については把握しているが個人宅については調査費用も膨大にかかる為調査出来ていない」との回答があり、弁護士から「固定資産課税台帳を使って把握できるのではないか？その上で一般住宅での危険性も把握できるのではないか？」とただされた。荒尾市については私たち「キャラバン隊と知恵を出し合い有効な手段を講じていきたい」と非常に前向きで腹を割って話す事が出来たように思います。

大牟田と玉名労働基準監督署については、個別に建設リサイクル法に係るパトロールについて、独自に行っている部分もあるが、自治体からの要請は受けたことがないとの事だった。

10月15日（月）は九州地方整備局、福岡県・福岡市に要請行動を行った。

福岡県に対して、キャラバン隊の弁護士から開口一番「取り組みが非常に遅い福岡県」と発せられ、アスベスト使用建築物の含有調査及び解体費用について県から「所有者が基本的に行うが、県のホームページでアスベストの含有調査・解体費用の融資の案内をしている」と回答していましたが、弁護士から「県内の各自治体で、調査・解体費用補助の仕組みを持っている自治体が極々限られている。県や各自治体から市民への情報発信が足りないのではないか？」との問いに、県の女性の職制は「補助制度については各自治体に促している、しかし、これに応えるのは北九州市・福岡市・大牟田市しかない中で、福岡県がどのように手段を講じよと言うのか？」とくらいついていきた。

弁護士から「建設アスベスト訴訟大阪1陣高裁判決で、国の責任がこれまで1／3だったものが1／2になった。これを踏まえて考えてみると、調査・解体費用は何も県や自治体だけが負担をするわけではなく国が負担すべきと考える。県内自治体を掌握する立場で、自治体への指導や市民への情報提供をしていくべきではないか」等、県から前進した答えは得られませんでしたが、喧々諤々話し合う事が出来た様に思います。

福岡行動の後、福岡市の天神ビルで「アスベストシンポジウム」が開かれ、4名のシンポジストが、医学的立場で、建設労働組合の立場で、アスベスト問題研究の立場で、法的な立場でそれぞれの調査・研究成果や問題提起をされました。

これを受けて私自身、「大牟田でも再びシンポジウムをやりたい」と思いました。

建設職人に、じん肺現場労働者に、医療人に、近い将来市民にアスベストの恐ろしさを知ってもらい、市民の健康も脅かす事を伝え、国民的大運動にしなければと強く思いました。（津波古）

第33回荒木栄記念祭

10月26日、第33回荒木栄記念祭が雨の中行われた。

荒木栄と共に闘った、1200名の指名解雇を受けても闘い抜いた、元日本共産党市議会議員笠原忠雄師匠が、荒木栄がどういう人間だったのか、今の社会情勢と重ね合わせて語ってくれた。

荒木栄碑に献花が行われこの為に庭で花を咲かせ、たむける人もいた。

最後に参加者全員で、「地底のうた終楽章」「沖縄をかえせ」「がんばろう」を合唱した。

大城嶺子さんも

荒木栄が遺したのは何なのかを改めて確認し、「真実の敵を打ち砕く」事を再認識した。

献花式

普段は労災にうるさい建交労が
日頃のご愛顧に感謝を込めて出血大サービス!!

第2回バザー開催

去る11月15、16の2日間、建交労事務所前で今年2回目のバザーを開催しました。

あまり天気には恵まれませんでしたが、御常連さんが多数来られ大変賑わいました。もう最後とあってたたき売りです。衣類は100円、茶碗類10円、その他の備品類は300円から高いもので1000円。

顔馴染みのお客さんが朝早くから「あら！よかつの出てるやんね。」「こげん安くてよかつね。」と声が飛ぶ。衣類も手に2着も3着も取り「どれがよかやろか」と迷うお客さん達。私はすかさず「迷いがつなかよ、みんな買っていかんね、3枚で300円たい。」「そうたいね、そんならみんな買うたい。」やった交渉成立。

そう言っているうちに4～5人どやどやとおばちゃん連中がやってきた。中には身の上話をして帰るお客さんもいた。一人住まいのお年寄りさんでしょう。誰かに話したかったのかもしれないと思い最後まで聞いてやった。「やっぱり若かもんはよかね。」と一言残して帰っていった。88歳のおばあちゃんいつまでも元気で。

お昼から小雨が降りだしたがお客は絶えなかった。常連さんともなると1日何回も来る。

でも一つでも買ってくれると嬉しい。断捨離、断捨離というけどやはりお年寄りはモノを大切にする。

勿体ないねと言いながら茶碗を多数買っていかれる。

準備するのに大変だったけど楽しくもあり、また近所の方と楽しくふれ合いが出来て売り上げも好調でした。

皆さんお疲れ様でした。

（猿渡）

後世に残るキャッチフレーズ求む！

建交労大牟田支部は、全日本自由労働組合を継ぎ、「失業と貧乏と戦争に反対」を貫いてきました。

大牟田支部2階付近の看板「失業者にもともな仕事と生活を！」のスローガンを、後世にも伝えられるものにしたいと考えています。ここでみなさんに募集を呼びかけます。後世に残るデザイン（キャッチフレーズ）を是非ご提案下さい。

日本が売られる

ジャーナリストの堤未果さんがこんなタイトルの本を出されました。

それは、インフラや食物、日本人の衣食住にあたる生命にかかわるものが、政府によって海外へ切り売りされているのである。テレビやインターネットなどの特集でちょっとは紹介されているが、報道として大々的には紹介されていませんが、これからの私たちの死に直結する中身です。

【水道の民営化】

戦後の高度成長期に整備された水道管の老朽化整備、海外への水道事業促進などを理由に水道事業を民営化するという動きです。

海外でも水道民営化が一時推し進められましたが、水道料金が3～5倍に跳ね上がったり、水の浄化が不十分で茶色い水が出たり、細菌による感染病が流行したりと酷い事態になり、国民の反感を買ってほとんどの国で公営化に戻されたという経緯があります。

それでも政府は自治体の管理の元、水道料金の上限額を決めたり、監視させるので大丈夫だとうそぶいています。

民営化は競争原理が働いて「良いことだ！」と言われる方もいらっしゃいますが、水道はその地域の水道管を通り自治体契約のもと一社独占になり競争原理は働きません。

ましてや日本に大規模な民間企業は存在せず、外資によって取られてしまうでしょう。水道民営化はすべての国で失敗しています。水道はライフライン最後の要です。電気、ガスが止まっても、水道は直ぐには止まりません。

その他に、原発再稼働や帰宅困難地域への安全宣言帰還とデタラメ、改正国家戦略特区、IR法（カジノ）、学校、医療（薬など）、老後（年金減額）、社会保障（保険料自己負担アップ）、マイナンバー（体内埋め込み型ICチップ）、キャッシュレス化、ハローワークや労働基準監督署の民営化、ブラック企業対策や労働者保護、そして今審議中の海外労働者受入れ（入国管理法）などについて書かれています。

今に始まったことではありませんが、この現政権は加速度を増して改悪の方向へ突き進み、日本を海外へ売り渡そうとしています。

これだけではなく消費税は社会保障費へ回すと言っておきながら、過去最大の防衛費に回したり、海外へ数十兆円のバラマキをしたりと歯止めがきいてません。

現政権は、一人一人の国民の方を見ていません。企業、それも大企業の方しか見ていません。

「知らなかった」「興味がない」「関係ない」では済まされません。全て私たちの生活や未来へとつながっています。考えすぎではありません、事実です。今立ち上がらないと・・・

「日本が売られる」を読み記事にしました。興味があったらお読みください。（高橋）

＜行事予定＞

１２月	１日	（土）	県労連女性センター定期大会（多田）
	２日	（日）	県本部女性部定期大会（原田・多田）
	３日	（月）	１３：００～公共・一般分会定例会
	７日	（金）	１０：００～労職分会定例会
	８日	（土）	山下登司弁護士を偲ぶ会（平川）
	９日	（日）	県本部春闘討論集会
	１３日	（木）	労職専従者学習会（津波古）
	１６日	（日）	１３：００～民間分会定例会
	１８日	（火）	１６：００～築炉じん肺弁護団会議
	１９日	（水）	支部執行委員会
	２７日	（木）	支部忘年会（ごくろうさん会）
	２９日	（土）	～１月３日　年末年始休暇
１月	４日	（金）	１０：００～事務所開き・労職分会定例会
	７日	（月）	１３：００～公共・一般分会定例会
	１０日	（木）	１４：００～九州建設アスベスト第２陣法廷
	１６日	（水）	支部執行委員会
	３０日	（水）	１３：００～労災職業病糟屋郡無料相談会

健康相談会（11月末時点）

・石綿健康管理手帳取得：４名
・じん肺管理区分４：１名
・じん肺管理区分３イ：１名
・管理区分審査請求：１名
・じん肺管理区分２　：１名
・じん肺合併症診断待ち：１名

建交労・女性部

第19回定期大会に参加して

11月3日（土）午後2時より、長野県上田市別所温泉にて、「女性部　第19回定期大会」が開催され参加しました。

加藤女性部部長、角田中央執行委員長の挨拶の後、全労連女性部からの激励メッセージを紹介がありました。そして、第18期経過報告と第19期活動方針では、「安倍改憲を阻止するために、学習をしっかり行い、女性部グッズのマフラータオルを使っての「署名運動」や「男女の賃金格差是正」「均等待遇」を求める取り組み、「ハラスメントのない職場を目指す」「高齢者の就労確保」「労働法制・社会保障改悪は許さない」などの運動を継続して進めていく事が確認されました。

後半は、各地の参加者からの活動報告がありました。

私は、大牟田支部の民間分会の活動報告をしました。民間分会は、労働相談で建交労大牟田支部を訪ねて来られ、それぞれが労働相談や生活相談を解決された仲間で、「自分たちの問題は解決したが、ブラック企業の横暴さに同じような悩みや生活相上の困難を抱えている仲間たちに手を差し伸べたい」と崇高な志で「地域の駆け込み寺」を自認して奮闘している集合体である事、月に1回の定例会議を、出来る限り皆が集える日曜日に開催し、それぞれの近況や労働相談、生活相談解決の検討や、学習を積極的に取り組んでいる事。有明乳業社や三井金属ターゲット事業部などの労働相談の解決や、民間分会のこれからの行動提起として、学んだことをどう活かすかにかかっている。学習に励むのは理論武装であり、それを実践に活かしてこそ、やがて権利獲得運動の『血』となり『肉』となり、各人が「駆け込み寺の」役割を果たす事が出来る。

これからも大牟田支部の民間分会は、地域の駆け込み寺」として地域の民主団体や労働組合、市民と連帯行動が出来るよう奮闘していきます。と報告しました。

角田中央執行委員長より「大牟田支部の活動は素晴らしい。建交労は地域の駆け込み寺にならなくちゃいけないね。今日は大牟田支部の話しが聞けて良かった。来年も大牟田支部がどんな活動をしたのか是非聞きたい！」と言って頂いて、身が引き締まる思いです。

あとは、他の支部や分会で交流を深めた様子や組合加入の感想など新鮮味あふれる発言が相次ぎました。

最後は、加藤女性部長の「頑張ろう！」で絆を確認し締めくくりとなりました。

2日目　フィールドワーク（山本宣治の碑について）

山本宣治は、1928年に施行実施された第1回普通選挙で当選した衆議院議員で、戦前の治安維持法反対を貫き、1929年3月1日に上小農民組合は山本宣治を招いて講演会を開催。この講演会から4日後の3月5日山本宣治は右翼によって暗殺された。上小農民組合は、山本宣治の死

を悼み、抗議の記念碑を翌年5月1日に建立した。

１９３３年２月「二・四事件」でタカクラ・テルは治安維持法で逮捕された。警察は家主の斎藤房雄に碑の取り壊しを命じたが、氏は自宅（旅館・柏屋別荘）に庭に埋め、38年間守り通した。

戦後、多くの協力者を得て、１９７１年10月碑はこの地に再建された。碑に彫られたラテン語は山本宣治の座右の銘「生命は短し、科学は長し」の意である。その後タカクラ・テル、斎藤房雄の碑も山本宣治の碑に並べて建立された。

無言館

無言館（戦没画学生慰霊美術館）について

「戦没画学生慰霊美術館」とあるように、美術学校あるいは独学で美術を学んでいたが、若くして戦没した画学生の遺作、遺品を集めた美術館館長の窪島誠一郎（父親は作家の水上勉）。彼は先にも信濃デッサン館（若くしてこの世を去った画家たちの作品などを展示）を建てたが、画家：野見山暁治さんに賛同して、画学生の遺族らから遺作などを集める。平成９年に「信濃デッサン館」の分館として「無言館」設立。

上田市は別所温泉近くの「塩田平」という地にあります。生活道路から山道に入るのですが、今は「観光スポット」になっているので標識も至る所にありますし駐車場もあります。予約なしの団体様（20名）は受け付けないなど、落ち着いて観る配慮がなされています。狭い山道を少し行くと、その丘の頂にコンクリート造の教会のようなたてものが見えてきます。正面に窓は無く、入り口も少しずつしか入れない普通の木のドア「高い声での私語は謹んでください」という趣旨のことが書かれています。この美術館は特に私語が出る雰囲気ではありません。

館内もコンクリートの壁で、そこに沢山の絵が飾られています。今まで観た美術館で見た絵と違い、保存状態が悪く中には絵具が酷く剥げ落ちた物もあります。画家別に展示されていますが、一人ひとりの作品はごくわずかです。

作品の下に簡単な作者の説明があります。

出身地。出身美術校。戦死した場所・・・

それに最後に必ず戦死した年齢が記されています。

「享年27歳」「享年23歳」「享年29歳」・・・最年長でも30代になったばかり・・・。

ある裸婦の絵の下に次のような事がかいてありました。

「戦地に行くことが決まって、初めて妻の裸体を描いた。この続きは必ず帰ってきて描くから・・・そう約束して戦地に赴いた彼は２度と帰ってはこなかった。

館内の中央にはガラスのショーケースがあり、そこには様々な遺品が並んでいます。

使い込んだ絵筆、色あせた写真、戦地から母へ宛てた手紙、戦地での様子を描いたスケッチ、幼い我が子にカタカナで「お父さんは元気だから君も頑張って」そう明るく書いた手紙。召集令状。それから戦死報告・・・。

館内の灯りを抑えた中で、作品や遺品を静かに、でも食い入るように観ました。

この美術館にある芸術的価値は分かりませんが、絵を描いた方だけでなく、多くの戦没者の無念さを感じます。

悲惨な戦争によって、画家として有望だった若い命が失われ、どんな気持ちで作品を描いていたか考えていたら、まさに「無言」となります。

館内はさほど広くはありませんが、作品を丁寧に観たら結構時間がかかります。

平穏な生活が送れていることに感謝できる気付きの場所です。（多田）